

西宮・芦屋支部第32回総会記念市民公開企画 歌と被曝体験 深い思いを感じた

7月21日、西宮市勤労会館で第32回支部総会を開催。記念企画「ウクライナの歌姫 ナターシャ・グジー コンサート」には医療関係者・市民ら410人が参加した。谷端美香先生(芦屋市・高橋歯科医院)が司会を務め、大森公一支部長があいさつした。

総会議事では岩下敬正世話人が議長を務め、広川恵一副支部長が活動報告・方針提案を行った。懇親会では林田英隆副支部長の進行で、幸原久顧問が乾杯し、ナターシャ氏やスタッフらとの交流があった。司会を務めた谷端先生の感想文を掲載する。



民族楽器バンドウラを奏でるナターシャ・グジー氏

西宮・芦屋支部の市民公開講演会には、大雨にもかかわらず大勢の方が来られ、大変喜ばしいことでした。私は昨年引き続き司会をさせていただきました。

ナターシャ・グジーさんの歌は大変素晴らしく、またチェルノブイリで被曝されたお話には今回の福島原発事故のことを連想せざるにはいられませんでした。

ナターシャさんは来日10年目というお話でしたので、大変日本語が達者で、日本の歌も大変素晴らしく、特に「秋桜(コスモス)」では感涙した次第です。

歌の合間に、静かにそして凛として語られる言葉に深い思いを感じました。



医師・市民ら410人がナターシャ氏の歌と話に聞きいった

被災地医療の現状講演会

開業医の底力で地域医療再生を

8月4日、保険医協会で青森県保険医協会会長の 大竹進先生をお呼びして被災地医療の現状講演会「地域医療再生/まちづくりのための処方せん」被災地に集まって知恵を出し合おう」を開催。広川恵一副支部長が司会を務め、20人が参加した。



被災地の現状を報告する大竹先生

大竹先生は「ほっと一息プロジェクト」や仮設住宅支援など、東日本大震災被災者に対する支援活動について多数の写真や記事などとともに解説。震災から1年以上が経過し、がれき撤去や医療機関再建などは一定進んだものの、深刻な医師不足が今なお続いている状況などについて報告した。

また、被災地の医療再生のため、医療・介護の連携、勤務医の定年延長、医学生への働きかけ、院内開業など多様な提言や取り組みを行っていることも紹介し、今こそ開業医の底力が期待されていると訴えた。

参加者からは被災地の新たな挑戦へのエールとともに、今後も地域医療再生のため共に奮闘する決意などが語られた。

英語で診療 Medical English #34

【日時】 9月21日(金)14時~15時半
【会場】 西宮医療会館1階会議室
【テーマ】 医院・薬局での服薬指導 part2
【講師】 Com Language School
Mr. Robert Conroy
【アドバイザー】 神戸薬科大学非常勤講師
西野 かおる 先生

お問合わせは協会事務局 岡林・山田・伊藤まで Tel:078-393-1803

世話人会だより

西宮・芦屋支部は7月27日に西宮医療会館で世話人会を開催。6人が参加した。

- 【報告】
①第32回支部総会(7・21)
【予定・企画】
①スマートフォン講習会(8・4)
②被災地医療の現状講演会「地域医療再生/まちづくりのための処方せん」(8・4)
③新規開業医交流会(8・25)
④保険請求事務講習会(9・11・2)
⑤健康と医療について語り合う会(9・12)
⑥Medical English #34(9・21)
⑦支部懇親会
⑧Medical English #35
⑨第11回胸部X-P読影会
⑩第29回在宅医療研究会
⑪ガイドライン研究会

※世話人会の日程は毎月第4金曜日です。支部についてのご意見や企画案などをお寄せください。

西宮敬愛会病院との懇談会

療養型病院との地域連携を探る

6月15日に西宮敬愛会病院との懇談会を現地で開催し、医師・メディカルスタッフら34人が参加。西宮敬愛会病院院長の伊藤芳久先生と地域連携室主任の竹村勇氏が病院の特徴などについて説明と病院施設見学の案内を行い、広川恵一副支部長が司会を務めた。参加いただいた先生からの感想文を掲載する。

西宮北口駅の近くで開業している小生

にとつて、急性期病院の多い中、療養型病院と銘打って西宮ガーデンズ南に本年3月1日より開院された西宮敬愛会病院とは果たしていかなるところかと興味があり、6月15日の懇談会に出席した。

伊藤院長の話は午後2時から20分間で、あとは病院内を3時まで見学した。敬愛会グループは兵庫県下の氷上に発し、すでに県下で何カ所か療養型病院を開設しているようで、西宮敬愛会病院は全病床219床で、内訳は180床の医療療養型病床、さらに39床の回復期リハビリテ



西宮敬愛会病院院長の伊藤先生

ション病床であり、外来診療はせず、6月1日より通所リハビリは受けているようである。

医療療養型病棟は、病状が安定期にあるが引き続き医学管理や看護が必要な方、重度の介護を要する方にあてられ、医療区分2、3が対象になるとのこと。入院中に急性増悪した場合は対応できないので急性期病院内に転院してもらうこともあるとのことであった。

人工透析は入院維持透析のみ行い(導入期のシャント造設には対応しない)、加齢によるADLの低下で通院が困難になった人などが対象とのこと。

回復期リハビリ病棟は家庭・社会復帰、寝たきり予防を目的に集中的なりハビリを行う病棟で、急性期病棟からの受け皿のようである。

入院の適否は医療区分×ADLから考えさせてもらうとのこと、医療区分2以上に限るとのこと。入院希望があればまず診療情報書を病院の地域連携室へ送り、何回かやり取りをした上で可否が決まるとのことであった(直接患者を病院へ送っても駄目)。

急性期病院の受け皿としての申し込みが多いようであり、病診連携の上での診療所側のメリットは今後の成り行きを見ないと即断できないとの印象を得た。

【西宮市・昭和内科医院 谷本透】

国会議員との懇談会

消費税問題など率直に意見交換

5月26日に保険医協会で、「国会議員との懇談会」第2回ファイアサイド・ディスカッション」を開催。参議院議員で内科医の梅村聡先生を講師に、伊賀幹二先生(西宮市・伊賀内科循環器科)の基調報告と司会進行のもと、医師6人が参加した。

参加者は消費税増税、生活保護、財政の問題や、後発医薬品、診療報酬改定の問題など多岐にわたるテーマでディスカッション。「診療報酬改定は3年毎にすべき」、「医療と税は切り離して考えるべきだ」など、率直な意見交換を行った。

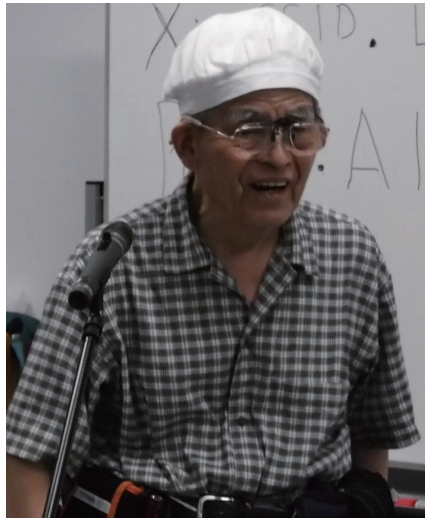


多岐にわたるテーマで参加者と率直なディスカッションを行う梅村先生(右)

スマートフォン講習会

ユーモアを交え、分かりやすく解説

8月4日に保険医協会で、「スマートフォン講習会」を開催。新田誠先生(豊岡市・高橋診療所)が講師、広川恵一副支部長が司会を務め、医師ら35人が参加した。参加者いただいた先生からの感想文を掲載する。



iPhone、iPod、iPadを何台も駆使して活用法を解説する新田先生

ひと昔前は携帯の「電磁波」が脳腫瘍の原因になるならないの話がありました。医師として、「脳腫瘍と電磁波」というテーマに興味は持つが、携帯を持ちたいと思ったことはありませんでした。遙かその昔、ポケベルが病院・医師間に流行り、行方不明(?)の医師を探す道具と化したり、会合、会議を抜け出すために呼び出しを掛けてもらうなど、都合よく使っていました。さらに遡って、戦後食糧難の時代、浅い入れ物に薄く広げた米粒に混じっている小石を探

し出すため、指で米粒をはねのけ、石を摘み取る大人たちの手の動きを思い出しました。あの指の動きが、今の世になってあちこちで見られるようになりました。

現代版は、仕事やビジネスに役立つ、本が読める、患者への説明が分かりやすくできる等々、評判は上々です。ポケベルもケータイも無縁の私は、とっくに時代の波に乗り遅れ、今さらという気持ちと、診療に使ってみたいという思いの間で、心が揺れていました。その時、新田先生の講演会のご案内を受け、まずは一歩を踏み出すことにしました。

83歳になられる先生が、iPhone、iPod、iPadを、日常診療において自在に駆使しておられることに感服いたしました。ハイテク機器の他、治療検査器具、薬までベルトに装着して、エネルギーに診療されている先生から多くのことを学びました。機器の解説、利用方法、コストの面までユーモアを交えての分かりやすいお話が、私の背中を押してくださいました。先生のご講演を機に、一日も早く覚えて慣れて、日常診療に生かしたいと決意した次第です。

【西宮市・李内科アレルギー科 李 英吉】